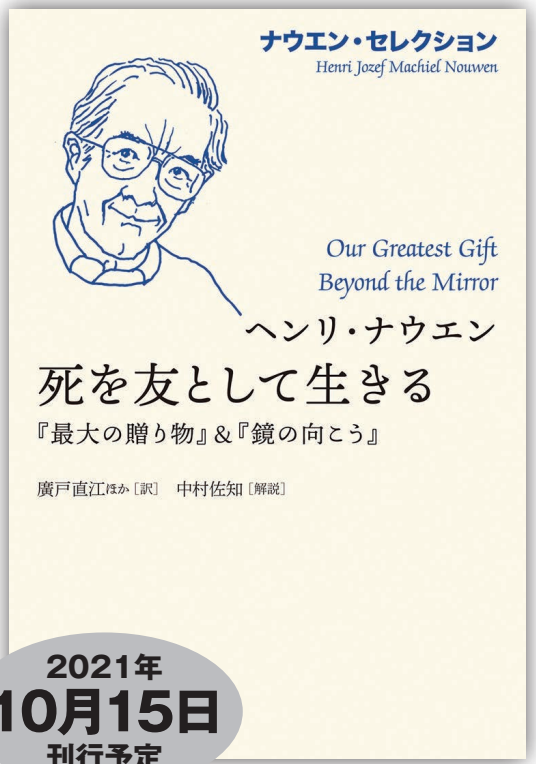
◆2021年10月の新刊　日本キリスト教団出版局

死にゆく人をケアし続けたナウエンが、自らの死とも向き合って開かれた境地

ナウエン・セレクション《第3回配本》

死を友として生きる



2021年
10月15日
刊行予定

ヘンリ・ナウエン 著

1932年、オランダ生まれ。1957年、カトリック司祭に叙階される。心理学を学んだ後、イェール大学、ハーバード大学で教鞭を執り、執筆活動を行う。1986年、カナダのラルシュ共同体に移住、ハンディキャップを持つ人々と生活を共にする。1996年、心臓発作により死去。

廣戸直江（ひろどなおえ）ほか 訳　中村佐知（なかむらさち） 解説

死は、忌避すべきものではなく、「神に愛された者」として成長していくための大切なステップなのだ。聖書の視点で死とケアを考える『最大の贈り物』と、交通事故の経験を踏まえて死の意味を思いめぐらす『鏡の向こう』の２作を収録。『鏡の向こう』は本邦初訳。

四六判・並製・192頁・定価2,420円（本体2,200円＋税）

ISBN978-4-8184-1095-4　C0016

シリーズ好評発売中

『今日のパン、明日の糧　暮らしにいのちを吹きこむ366のことば』定価2,640円（本体2,400円＋税）
『アダム　神の愛する子』定価2,200円（本体2,000円＋税）